



多文化共生としての

舞台芸術

第3回

「演劇」を考える

講師 江原 早哉香 <えはら さやか> (「東京演劇集団風」 演出家)

常々、私たちが「舞台芸術」を見る・触れる・創るためには、
たくさんの壁・困難が積みまっています。現在の「演劇」には、
多様な文化・経験を否定してしまう危険性、つまり「多文化共生」
の全く正反対へと進んでしまう可能性も秘めているのです。

これから「演劇づくり」に向かう皆さんと、まず、「演劇」が持つ
社会的課題を明らかにし、その困難を認識することから始め
たいと思います。そして、その困難に抗うため、さまざまな
時代、さまざまな環境で試みられているいくつかの実践を取り
上げます。

一瞬であっても、互いのことを認め合い、共に生きる「演劇」が
本当に可能なのか— 皆さんと一緒に考えてみたい、そう思っ
ています。



Profile

江原 早哉香

「東京演劇集団風」演出家。日本大学芸術学部演劇学科を2007年に卒業後、東京演劇集団風に入団。演出と同時に、海外アーティストとの協働や全国公演のプロデュースも行う。ルーマニア出身フランス在住の劇作家マテイ・ヴィスニウツク作品を多く演出している。演出作『なぜへかべ』『母が口にした「進歩」』『記憶の通り路』ほか

2021年6月7日(月)17:50~19:20

Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語: 日本語
- 参加費: 無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 参加ご希望の方は、6月6日(日)17:00(日本時間)までに、右の二次元バーコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
- ホームページからも登録できます。



http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210607_1.html

- 問い合わせ先: nukyoko@tufs.ac.jp (沼野恭子)

予告 多文化教育プロジェクト 連続セミナー

- 第4回「字幕」馬場紀雄(オペラ演出)
- 第5回「ミュージカル」高橋知伽江(脚本家、翻訳家)
- 第6回「舞踊」永田宜子(新国立劇場 前研修主管参事(元舞踊チーフプロデューサー))
- 第7回「日本の古典演劇」
- 第8回「日本の現代演劇」内野儀(学習院女子大学教授、アメリカ演劇・日本現代演劇)

主催: 総合文化研究所 / 共催: 語劇支援室